

(様式 1)

令和 6 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立吾嬬第二中学校
校長名	駒田 るみ子

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">1 学年は、AB 層が国語は 60.8%、数学は 59.5%、理科は 54.1%、英語は 68.9%であった。DE 層は英語が 20.3%であった。2 学年は、AB 層が国語は 53.2%であった。経年変化を比較すると DE 層は理科が 2.2 ポイント減少した。3 学年は、経年変化を比較すると AB 層が理科は 0.6 ポイント、英語は 1.8 ポイント増加し、それぞれ B 層が増加した。	<ol style="list-style-type: none">2・3 学年の成果が見られる教科について、学習指導方法を共有し、学校全体で CD 層への学習支援措置（年 3 期の学習補充教室）を行う。社会は、ふりかえりシートや授業内の小テスト等で、学校全体で組織的に基礎学力の定着・向上を図る。全教科において活用力（資料読解、記述、表現力）を身に付けるためにロイロノートを活用した話し合い活動・発表活動を行い、授業改善を図る。どのようにアウトプットの時間を取るか考え、実行する。全学年対象の放課後学習補充教室を引き続き実施する。3 学年では発展的内容も扱う実力アップ講座も継続する。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">自分にはいいところがあると思うと回答した生徒が全国平均より高い。「クラスの人がふざけたり、おしゃべりをしたりして、授業に集中できないことがありますか。」「クラスや部活で冷やかされたり、からかわれたり、嫌なことをしつこく言われたりすることがありますか。」への回答の肯定率が全国平均より高い。1 学年では「家族・友達・先生のささえ」、「学級環境」に関する全項目で全国平均をより肯定率が上回っている。	<ol style="list-style-type: none">学級や班での話し合い活動の際に、自分の意見を積極的に発信することを苦手とする回答が全国平均よりも多いため、ソーシャルスキルトレーニングや話し合いのルール「もやしちゃんとあおいふく」を全校で共有して話し合い活動を実践する必要がある。学校の授業以外での学習習慣が全国平均よりも下回る回答が多いため、全校全体で計画的に学習課題を設定することが必要である。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">全学年で授業に集中して取り組む生徒が多く、授業規律が徹底されている。授業指導で「吾嬬二中プロシージャ」を意識した授業を全教員が実施している。全国学力・学習状況調査では、国語で知識・技能「我が国の言語文化に関する事項」、思考・判断・表現「話すこと・聞くこと」の正答率が全国平均を上回っている。生徒質問で「タブレット等の ICT 機器を活用し、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」のへの回答の肯定率が全国平均より高い。	<ol style="list-style-type: none">一日の家庭学習の時間が短く、また定期考査前と定期考査後の家庭学習時間の差が激しいため、教科だけでなく学年ごとに組織的な家庭学習の推進を行い、放課後学習補充教室を充実させる。吾嬬二中プロシージャをさらに徹底した授業改善を行い、アウトプットに力を入れる。教員全員が研究授業を実施し、授業力の向上を図る。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 基礎・基本の定着を図り、活用能力を高める授業の実践【授業改善】

- ①学習のねらいを明確にした授業の導入、学習の振り返りを意識したまとめ・アウトプットの徹底。
 - ・吾嬭二中プロシーダを再確認し、共通理解のもと個に応じた丁寧な指導を心掛ける。
 - ・学習内容のアウトプットを授業内で行い、さらに時間をおいて単元のまとめ等で繰り返し確認することで短期記憶を長期記憶にして定着させる。
- ②区学習状況調査、全国学力・学習状況調査の結果の分析及び学力向上プランの作成
 - ・過去の問題に取り組み、弱点を把握させ、粘り強くそれを克服するような授業を実践する。
 - ・全教員が学力向上プランに基づいた授業実践及び検証を行い、振り返り期間を利用して生徒への個別の学習支援を行う。
- ③数学・英語（習熟度別少人数指導）の効果的な実施
 - ・各コースの生徒数も考慮しながら、学習事項を定着させるための繰り返しの学習を進めることで学力向上を図る。
 - ・特に発展コースでは、発展的な問題に多く取り組ませることで活用の力を高めていく。
- ④班編制を工夫した話し合い活動による思考力・判断力・表現力の向上
 - ・生活班に限らず学習を意識して、生徒の実態に応じた班編制を行う。
 - ・ホワイトボード、ロイロノート等を使って、二往復以上の話し合い活動により思考力・判断力・表現力の向上を図る。
- ⑤ICT機器の活用
 - ・授業でiPad等を用いて画像・動画、ロイロノートやミライシードなどを目的に応じて活用し理解を深めさせる。
 - ・音読メーターを使用し、英語の発話において生徒自身で課題に気付き、主体的な学習を実践させる。

(2) ふりかえりシート等の効果的な活用と、定期考査・各種コンテストの実施【繰り返し学習】

- ①既習事項の復習や宿題として、各教科におけるふりかえりシート・問題データベースの効果的な活用
 - ・前期期末考査後からの3週間を学習の振り返り期間としてふりかえりシート等を実施する。各教科でふりかえりシートを活用し、自分の弱点を把握させるとともに個別に支援を行う。
 - ・学年末考査から修了式までの期間を一年間の学習振り返り期間として、各教科で弱点の克服を目指していく。
- ②年4回の定期考査の実施
 - ・定期考査3週間前より家庭学習計画を作成し、実施させることで学習量を前回より一日20分増やすことを目標にする。
 - ・定期考査前に質問教室「吾嬭二塾」を実施し、組織的に課題学習や朝学習の時間を設定する。
- ③授業における小テスト・確認テストの実施
 - ・日常的な小テスト等の取組を通じて、学習意欲を高めていく。必要に応じて補充を行う。
- ④国語：漢字コンテスト、数学：計算コンテスト、英語：音読大会・スペリングコンテスト
 - ・各種コンテストに向けての学習を通じて、読む・書く・話す・計算の基礎を定着させる。
 - ・目標点に達しなかった生徒に対して、補充学習を実施する。

(3) 学習機会の拡大【D・E層の生徒の基礎学力の定着】

- ①質問教室や補習教室の実施（下位層の生徒を指名するとともに、希望者も対象とする。）
 - ・夏休みに補充教室を実施する。
 - ・定期考査前や各種コンテスト前に放課後学習教室「吾嬭二塾」を実施する。
 - ・すみだSSTを活用して、国・社・数・理・英の学習補充教室を実施する。
 - ・3年生の希望者対象の実力アップ講座を通年で毎週火曜に実施する。
 - ・補充教室や吾嬭二塾への参加者の選定と増加
- ②宿題を計画的に学校全体で出す。
 - ・学習サイクルを確立するため、ふりかえりシート・ミライシード・問題データベース等に毎日取り組ませる。
 - ・3学年ではSS(Self Study)ノートで自己で課題を見付け学習に取り組ませる。

3 「令和7年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・5教科45観点のうち、全国平均を上回る観点を26以上にする。（今年度は16）
- ・全教科の「知識・技能」の観点を定着させ、全国平均を上回るようにする。
- ・2・3年生のすべての教科でD・E層の生徒の割合を30%以下にする。